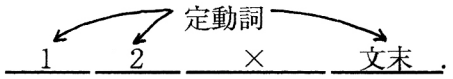
LEKTION 1: Werner Schmidt ist Student. Er hat Ferien.

文法の要点

I) 動詞の話の１回目（規則動詞）

・定動詞: 主語ごとに形の定まった動詞。⇔ 不定詞: 主語を持たず，形のまだ定まらない動詞（原形）。不定詞の形は ___en（日本語は ___u）。ドイツ語ではすべての主語について動詞の語尾が定められている。主語は表の左端の４種（英語の I, he/she/it, we, they/you）。kommen の例では表の一番上の kommen が不定詞で，語尾の -en を -e, -t, -en, -en に付け替えるとそれぞれの主語に対する定動詞になる（「付け足す」ではない点に注意）。sein（英語の be）は形が不規則なので丸暗記。haben（英語の have）はやや不規則。

・定動詞の位置:



基本は２番目。２番目に置くのは平叙文と補足疑問文，文頭に置くのは決定疑問文と命令文，文末に置くのは従属文（第１０課）。

II) 否定の話の１回目（全文否定）

・決定疑問文を作るには定動詞を文頭に出す。否定文を作るには nicht を入れる。いずれも英語のように do, does, do not, does not などを使う必要はない。

・nicht はなるべく後ろに置く。ただし，動詞と一緒になってひとつのまとまった意味を形成する要素は文末に置く。その場合，nicht はその前でブロックされる。例: aus Bonn は kommen と一緒になって「ボンの出身である」ことを表す（kommen だけでは「来る」を表すだけ）。従って aus Bonn は「…の出身である」という意味を形成するための必須の要素であり，文末に置かれる。krank ＋sein「病気である」も同様。

・不定冠詞付きの名詞や無冠詞の名詞の否定には kein を用いる。無冠詞になるのは複数名詞（Ferien など）や物質名詞，抽象名詞（Bier, Zeit など）が不特定の場合。keine Ferien の -e は複数名詞の場合に付く語尾（第２課）。

・名詞が動詞と一緒になってひとつのまとまった意味を形成する場合，それは名詞と言うよりは動詞の一部である。従って，否定には nicht を用いる。例えば国籍の表現における Japaner は単に「日本出身」を表すだけで，具体的な姿形をした人物ではない。身分，職業の場合も同じ。「車の運転をする」の Auto も，黒塗りのクラウンとか中古のベンツとか，具体的な姿形をした自動車ではない。